

行政調査報告書「低炭素社会推進特別委員会」

平成 28 年 11 月 9 日（水）～11 日（金）

■岩手県盛岡市 IGRいわて銀河鉄道株式会社「すごeーきつぷについて」

IGRいわて銀河鉄道株式会社は、平成14年に、東北新幹線の盛岡～八戸間の開業に伴い、並行在来線である東北本線の盛岡～目時間を、JR東日本から経営を引き継ぎ、開業した企業である。地域住民の通勤・通学、通院等日常生活における交通手段としての社会基盤と北海道と首都圏を結ぶ鉄道貨物輸送の大動脈としての役割を果しつつ、安定的な経営を目指し、乗車人数を増加させるため、銀河食堂車などの企画商品の展開や、鉄道業務以外に、新駅設置による市街地の発展、駅舎の遊休スペースの商業施設化等により、多角経営を進めている。

IGRいわて銀河鉄道の沿線には、盛岡市をはじめ3市2町があり、全人口は40万人程度あるが、東北地方の他地域と同様に人口減少も進んでいる。このことから、乗降客数を確保するため、色々な企画商品が出されている。そのひとつが、「すごeーきつぷ」であり、移動の利便性を向上させるため、バス会社と連携し商品化した点は、会社の業務範囲を超え利用者の立場で企画された点は参考になる。



■宮城県仙台市「仙台コミュニティサイクル ダタバイクについて」

仙台市では、「せんだい都市交通プラン」において、都心の交通環境をもっと快適にすることを基本方針のひとつとした。その実現のため、「杜の都の自転車プラン」が策定され、コミュニティサイクルの検討が始まり、平成22年11月にコミュニティサイクルの本格導入の可能性の検討と課題把握を目的に、事業の社会実験をスタートさせ、その利用状況のアンケートでは、90パーセントの利用者から、「満足」との評価を得た。



この事業は、全国の14地区で展開されている、行政にとっても、事業の運営費などが有利であるため、導入を検討すべきと感じた。

■株式会社NTTファシリティーズ「イノベーションセンターについて」

イノベーションセンターは、その先の未来を見据え、事業を支える実証実験型オフィスとして計画し、平成26年7月に供用開始した。新たな取り組みとしては、ビルディング・インフォメーション・モデリング（BIM）システムによるライフサイクルマネジメントコストの削減、ビルディング・インフォメーションマネジメント・システム（BIS）による省エネルギー、知的生産性、セキュリティの向上、再生可能エネルギー等によるエネルギーの高効率利用、4要素空調方式と未利用エネルギーの建物内最適融通による省エネルギー性と快適性の両立、モニタリング技術と連携した可変型制震構造システムの構築等があり、ユーザー視点で研究開発を進めている施設である。

（株）NTTファシリティーズは、ファシリティ（施設、設備）のパフォーマンスを発揮させるため、ライフ・サイクル・コスト（LCC）の最適化により、パフォーマンスを最大化させている。LCCの構成には、建設費と竣工後の保全費、修繕費、更新費、運営費等がある。耐用期間において、竣工後の運営管理コストが、初期投資の3～4倍必要になることに着目し、その費用を削減することにより、トータルコストを20パーセント削減させる提案はとて興味深いものであり、当市の施設においても導入を検討すべき考え方である。

